

# 自己評価・施設関係者評価 結果公表シート

認定こども園 鈴蘭台北町こども園

## 1. 教育・保育 目標

- ・子どもを中心に、子どもの興味関心からあそびを広げ、子ども主体の教育・保育を実践する。
- ・職員の持ち味を活かし、園の子どもは職員みんなで見るという意識をもち、あそびや子どもの姿について話し合いを重ね、様々な視点からより良い教育・保育につながるように取り組む。
- ・地域の中にある園として、今ある地域とのつながりを大切にし、近隣の学校園や小規模保育園 すぎきた・小部児童館との連携を活かしながら、新たな支援や地域のニーズの把握に努める。

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した評価の具体的な目標や計画

- ・子どもの興味関心から広がる、プロジェクト保育の実践の内容や環境の工夫を客観視してもらい、教育保育の質の向上に繋げたい。
- ・乳児クラスは、ワンフロアでの保育を行っているため、連携を密に取っているが、当たり前になり過ぎている点に気付き、更にできる工夫を見出したい。
- ・環境構成を常に意識している中で、様々な視点をもらって環境の見直しに繋げたい。

## 3. 自己評価の実施内容と評価項目の達成及び取組状況

自己評価実施時期	令和5年12月5日(火) 14:00~15:30
参加者	【鈴蘭台北町こども園】 園長、主幹、クラス担任職員

評価項目	評価・結果	理由
(1) プロジェクト保育	B	プロジェクト保育の実践を継続させる工夫や複数のプロジェクト保育実践の在り方を検討
(2) 乳児保育環境の見直し	B	職員同士の話し合いでより良い環境づくりに努めているが、別の視点からの意見も必要
(3) 保育環境の整備	B	園の構造を活かした環境整備の見直し

## 4. 評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

評価・結果	理由
B	<ul style="list-style-type: none"><li>・プロジェクト保育に関して 子どもの興味関心から深めるプロジェクト保育の実践は、継続や関わる職員に工夫が必要になってくるので意見やヒントが欲しい。</li><li>・乳児保育環境の見直し ワンフロアでの環境構成において、年齢に応じた環境の工夫が必要。</li><li>・保育環境の整備 1階と2階に保育室がある構造を活かした教育保育の実践と、環境整備について幅広い意見を聞きたい。</li></ul>

※「3」「4」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

## 5. 公開保育の実施内容

実施日程	令和5年12月6日(水) 9:30~14:30
参加者	【北町】 園長、主幹保育教諭、保育教諭(13名) 【外部】 おっこう山(2名)、桜の宮こども園(3名) 山のまち(1名)、小規模すずきた(1名)
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みてみて保育</li> <li>・3歳児プロジェクト保育実践</li> <li>・4, 5歳児プロジェクト保育実践</li> <li>・ディスカッション</li> </ul>

## 6. 施設関係者評価

おっこう山参加者	・プロジェクト保育を広げる中で、子どもの声を拾い上げる工夫が見られた。
桜の宮こども園参加者	・勤務形態に関係無く、プロジェクト保育を進めているが、経過の共有や展開の仕方を模索している様子が見て取れた。パート職員を巻き込んでいる実践が参考になった。
山のまち参加者	・素材の幅が広い。どこにいてもどこからでも目が届く環境構成を考える事で、安心できる構成になっている。
小規模すずきた参加者	・乳児保育は、中庭も活用しながら保育を行っており、室内に限らない保育の工夫が子どもたちの生活の安定を図っていると感じた。
統括園長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクト保育は、継続しないものもあって良い。そこから次に広がっていく。</li> <li>・教育保育は、子どもの興味関心から深めていくもの。だからこそ、目の前の子どもの姿に着目する必要がある。</li> <li>・子どもはもちろん、保育者も楽しんであそぶ事が重要。</li> <li>・乳児期は特に保育者の存在が重要。子どもたちが求めている時に目を見て話す事で受容されている安心感が生まれる。</li> <li>・乳児の育ちが、幼児の育ちに繋がっていく。</li> </ul>

## 7. 今後取り組むべき課題

課題	取り組み方法
プロジェクト保育	プロジェクト保育を園全体に広げ、子どもの興味関心を深められる取り組みに力を入れていく。内容や現状の共有を全職員で行っていく事で、より一層、園独自の魅力発信を保護者にも地域にも行っていく。
乳児保育環境の見直し	安心安全な環境構成をその都度見直し、目の前にする子どもが温かい環境の中で育っていけるよう、意見交換を意識していく。
保育環境の整備	園の構造を活かした環境整備の在り方を園を超えて法人内でも意見をもらいながら、子どもが生き生きと過ごせるような環境の在り方を検討していく。